

家畜衛生情報

ハエの発生を防ぎましょう！！

ー基本は自由に動き回れない卵・幼虫・蛹の対策ですー

＜ハエ防除薬剤＞主な殺虫剤の種類は以下のものがあります。（裏面）

- 1 **有機リン系** 速効性のもの、遅効性のもの、残効性のあるものもあり、広く使用されている。神経毒。
- 2 **カーバメイト系** 塩素とリンが含まれている化合物で、殺虫力と速効性に優れるが、毒性がかなり高い。
- 3 **ピレスロイド系** 除虫菊製剤で速効性があるためハエ駆除の空中散布に多用。残効性は一般的に少ない。
- 4 **脱皮阻害剤等** IGR 剤と呼ばれ、蛆を成虫にさせない殺虫剤。

＜ハエの駆除＞

1 幼虫の駆除

(1) IGR 剤の使用

IGR 剤を成虫が卵を産む場所に幼虫がいる場所に丁寧に満遍なく散布する。幼虫が存在する発生源を的確に見つけ出すことが重要です。発生源にもれなく散布してください

(2) 糞の適度な乾燥（糞の水分を 70%以下に抑えるように）

(3) こまめな除糞

2 成虫の駆除

(1) 「ペイント オン ベイト法」(POB 法) の利用

有機リン系やカーバメイト系の食毒系薬剤と砂糖や酒、糖蜜などを混ぜて、天井、壁、柱のようにハエが好んでとまるところに塗るか吹き付けたり、毒餌を置いたりして殺虫する方法。

重要なポイントは、

- ・「殺虫効果を確実に」いかに夜間にとまっている場所や昼間に集まっている場所を確認すること。
- ・「長期間の残効性」希釈濃度をできるだけ濃くすること。

※塗布面や吹き付け面などが乾燥したら、水を噴霧することで効果が復活します。

(2) ハエの生態を知ること

- ・ハエは味覚を足の裏で知る ・ハエは明かりがないと飛べない
- ・ハエは仲間の付けた糞や唾液跡の場所によくとまる ・ハエは寒くなると暖かい場所に集まる
- ・ハエは死んだ仲間に集まる

(3) 空間噴霧（緊急時）

お勧めの薬剤はピレスロイド系。薬剤の適正濃度希釈を遵守。

散布は薄暗い雨天や曇天に行なうと効果的。散布方向は壁などの限られた空間に向けて実施。

薬剤抵抗性を獲得する可能性があるため、複数の薬剤を順番に使用。

（養牛の友 2007年5月号より）

※殺虫剤の多くは畜体噴霧が許されていないものが多く、食品衛生法違反にもなりますので畜・鶏体への暴露が極力軽減されるように注意を払って行なってください。

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 Fax 32-9019 E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp

異常など確認された場合には、至急ご連絡ください。

